

龍門石窟

— 研究の軌跡と現在

第1回 10月7日(木)

稲本 泰生 | 《講題》
龍門石窟の造像と石刻文
— その歴史と近代人の視線

第2回 10月14日(木)

向井 佑介 | 《講題》
北魏洛陽の宮殿と寺院を掘る

第3回 10月21日(木)

倉本 尚徳 | 《講題》
唐代龍門石窟と浄土信仰

第4回 10月28日(木)

フォルテ・エリカ | 《講題》
龍門石窟と周辺の僧院
— 奉先寺址の発掘

各回 18:00-20:00

事前登録が必要です【聴講は無料】



主催

京都大学人文科学研究所

お問い合わせ

京都大学人文科学研究所 総務掛

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL 075-753-6902 (月～金 9:00～17:00)

mail: z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp>

事前登録はこちら



※ 登録後、登録していただいたメールアドレスに URL が送信されますので、当日はその URL にアクセスをお願いいたします。

※ 登録は前日まで受け付けますが、希望者多数の場合、事前に登録を打ち切ることがあります。



○龍門石窟連続セミナーについて

中国三大石窟の一つとして敦煌・雲岡と並び称される龍門石窟は、河南省洛陽郊外に位置し、黄河支流の伊水に沿って膨大な数の窟龕がうがたれています。5世紀末の開窟以来、主に北魏王朝と唐王朝のもとで制作された造像は、大小あわせて10万体をこえるとされます。また龍門には、造像の記録を石に刻んだ文字史料が多数のこっています。これらは歴史・宗教研究の素材であるのみならず、書法芸術の作品としても貴重な文化遺産です。

人文研の前身の一つである東方文化研究所の水野清一・長廣敏雄は、1930年代に龍門の調査研究を行い、のちの『雲岡石窟』（1951～1956）に代表される石窟研究の基礎を築きました。本年（2021）は、兩人による報告書『龍門石窟の研究』（1941）の刊行から80周年にあたります。

このセミナーでは、洛陽周辺の関連遺跡における発掘調査や、最新の仏教史研究の成果をまじえつつ、龍門石窟の奥深い魅力を紹介します。

○講師紹介



稲本 泰生 Yasuo Inamoto

京都大学人文科学研究所 教授

専攻：仏教美術史

著作：「ボードガヤー出土の10-11世紀漢文石刻史料と訪天僧の奉獻品」（『東方学報』94、2019）など



向井 佑介 Yusuke Mukai

京都大学人文科学研究所 准教授

専攻：中国考古学

著作：『中国初期仏塔の研究』（臨川書店 2020）など



倉本 尚徳 Hisanori Kuramoto

京都大学人文科学研究所 准教授

専攻：中国仏教史

著作：『北朝仏教造像銘研究』（法藏館 2016）など



フォルテ・エリカ Erika Forte

京都大学人文科学研究所 教授

専攻：中国考古学、シルクロードの美術と歴史考古学

著作：Forte, Erika, ed. *Ancient Central Asian Networks: Rethinking the Interplay of Religions, Art and Politics across the Tarim Basin (5th-10th C.)*, *Buddhist Road Papers*, Special Issue, vol. 6.1. Bochum, 2019. など

